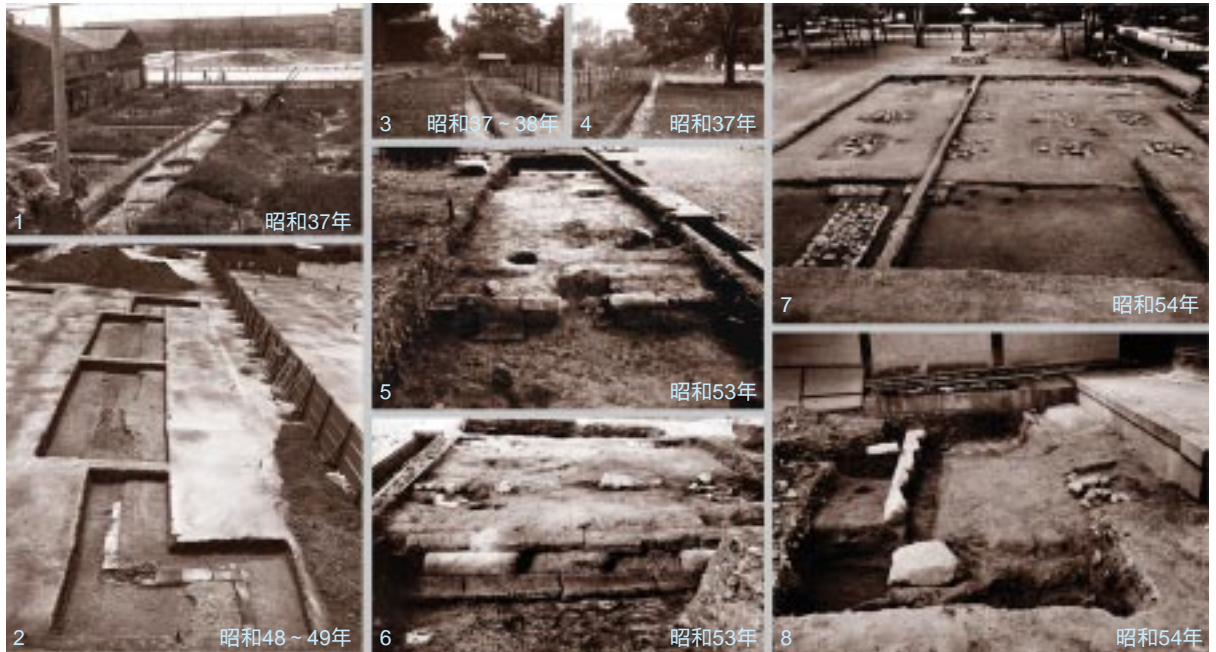


## 特別展示 平安京発掘と杉山信三博士

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



東寺・西寺の調査 (1・2: 西寺跡 3~8: 東寺旧境内)

昭和34年、岡崎に京都会館の建設が予定され、その地が六勝寺の一つである尊勝寺跡にあたることから、初めて先生は、京都市内の発掘調査をされました。翌年には、八角円堂跡が検出された仁和寺関係の遺跡や西寺跡、名神高速道路建設にともなう鳥羽離宮跡の発掘調査などを行なわれています。

昭和37年 東寺・西寺の伽藍主要部の発掘から、平安京造営尺を確認され、平安京の条坊復原に大きく貢献されています。両寺の伽藍中心間の距離(3000尺=2961.75現尺)を実測し、平安京造営尺が0.987現尺であることを確認されたのです。

昭和42年 榎原廃寺跡の発掘調査で、八角平面の塔跡を中心に

門跡・廻廊跡を検出するなどの成果をあげられ、秦氏が7世紀半ばに造営したと考えられる寺院跡を明らかにされました。現在この遺跡は国の史跡に指定され、史跡公

園として整備されています。

昭和43~44年 法金剛院跡は丸太町通の拡張に先立って、3次にわたる発掘調査を行なわれています。池の汀跡や築地跡が検出さ



昭和42年



昭和46年

榎原廃寺の調査と整備された史跡公園



昭和43年



昭和43年



昭和43年

法金剛院の調査

れています。

鳥羽離宮跡の調査は、昭和33年8月の地形測量をもとに、昭和35年7月に試掘調査を行なわれました。第一次調査です。

昭和47年 鳥羽安楽寿院の境内に鳥羽離宮跡調査研究所を設立され、鳥羽離宮跡第11次から第20次までの発掘を進められました。

第21次以降、第149次までは、(財)京都市埋蔵文化財研究所が担当し、鳥羽離宮の東殿・田中殿・北殿・馬場殿などを発掘調査しています。北殿では南北棟の大きな遺構が検出され、また、田中殿では、金剛心院の釈迦堂跡・東池庭跡の遺構が明らかになってい



鳥羽離宮跡の池（上）と地業（下）



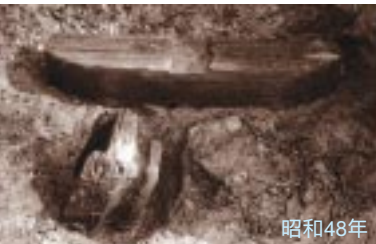
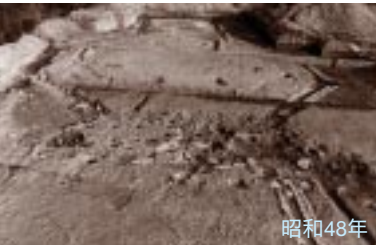
鳥羽離宮跡出土の木製五輪塔



法勝寺跡の調査

ます。

鳥羽離宮跡調査研究所は、昭和49年の醍醐栢杜遺跡の発掘や、昭和50年の春と秋に岡崎の法勝寺金堂跡を調査されるなど、調査の



八角円堂跡（上）と方形堂跡（中・下）



方形堂跡出土の建築部材

拠点として大きく活用されました。

昭和49年 栢杜遺跡では、醍醐寺の子院である源師行が造立した八角円堂跡（大藏卿堂）や重源が造立した方形堂跡（栢杜堂）ならびに八角円堂跡の西側には景石を配する庭園遺跡が検出されました。

昭和51年 11月、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が設立され、杉山先生は発掘調査体制の進展に尽くされた有識者のうちのお一人として、研究所所長に迎えられています。

平成6年 3月に退任されるまでの間、平安京右京六条一坊五町の寝殿造りの高級邸宅跡・平安宮豊楽殿の基壇跡・内裏内郭回廊跡など、平安宮や平安京の調査研究を指導され、多くの有用な資料を提供し、学術の進展に大きく貢献されました。

平成9年 12月28日、91才にてご逝去されましたが、先生の平安京研究に対する熱心な思い、意志、功績を受け継ぎ、今後も発掘調査を進めて行きたいと思いを。

(永田 信一)